

中学生のインターネット依存傾向の予防・改善を目的とした情報モラル教育に関する実践的研究

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学 公開日: 2018-06-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 酒井, 郷平 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00025231

最終試験の結果の要旨及び審査委員 報告書

学籍番号	30540002	氏 名	酒 井 郷 平
論 文 題 目	中学生のインターネット依存傾向の予防・改善を目的とした 情報モラル教育に関する実践的研究		
論文審査結果	合		
最終試験結果	合		
最終試験 審査委員	審査委員長 石川 恭 委 員 北山 敦 康 委 員 白畑 知 彦 委 員 村山 功 委 員 山崎 保 寿 委 員		

(最終試験の結果の要旨、1,000 字程度)

最終試験は、学位申請者による研究内容の説明（プレゼンテーション）の後に、研究および学位申請論文の内容に関する口頭試問を行った。口頭試問では、国内外の先行研究と本研究との関係、インターネット依存およびインターネット依存傾向の定義、「自覚」と「自律」の意味とその妥当性、情報モラル教育の必要性と社会背景、因子分析および重回帰分析の結果に関する解釈、新学習指導要領の実施に際する授業プログラムの実用可能性などについて詳細な質問がなされた。これらの質問に対する学位申請者の応答は、妥当で適切なものであった。

口頭試問の結果、確認された本研究の成果とその特色として、次の点を挙げることができる。

- (1) インターネット依存傾向に焦点を当てた情報モラル教育の必要性を踏まえ、「自覚」と「自律」の概念を設定し、それらを測る尺度を検討のうえ開発していることは、本研究の独自性として認められる。特に、「自律」に関する尺度は先行研究がなく、それをを用いて授業プログラムの検証まで結び付けた点が高く評価される。
 - (2) インターネット依存傾向に関する授業プログラムの開発的研究については、国内外の先行研究においても中学生を対象とした研究が殆どないことから、本研究が中学生を対象とした有効な授業プログラムを開発していることに関して研究内容の新奇性がある。
 - (3) インターネット依存傾向を予防・改善するための授業プログラムを開発し、自ら複数の小・中学校等で実践・検証し、さらに教員研修によってその有効性と汎用性を実証していることは、本研究の実用可能性として評価できる。また、新学習指導要領における情報モラル教育の重要性という点でも時宜に適った研究である。
 - (4) 開発した授業プログラムの方法的特徴として、児童生徒の身近な事象を出発点として「自覚」と「自律」を考えさせ、最終的に、広い視野に立つ情報モラルの判断力にまで導いている。この方法は、様々な教科にも応用可能であり、教科開発学に相応しい教育方法として高く評価できる。
- 以上から、本研究は博士の学位に相応しい水準に達していると評価できる。

審査委員長

石川 恭

